

▼ ヒトツバタゴ (ナンジャモンジャ) 自生地風景



ヒトツバタゴは5月上旬～5月中旬が見頃です。

# 犬山の ヒトツバタゴ

犬山市池野字西洞地区には、国指定天然記念物のヒトツバタゴ自生地があります。

樹高約14メートルのものをはじめ全部で7本のヒトツバタゴ。5月には真っ白な花が咲き誇り、まさに雪が降り積もったようになります。

NANJYAMONJYA

## ● 名前の由来

ヒトツバタゴの名は、木の形状はタゴ(トネリコ)の木に似ているが、タゴの複葉に対して単葉であることから、一つの葉のタゴの意味で名付けられたと言われています。また、別名「ナンジャモンジャ」とも呼ばれています。

「ナンジャモンジャ」の由来は、江戸時代に六道辻ろくどうつじにあったヒトツバタゴが「六道木ろくどうぼく」と呼ばれ非常に有名でした。しかし本当の名前がわからないため「ナンジャモンジャ」と呼ばれるようになったのが始まりだと言われています。

## ● 特徴

ヒトツバタゴは、モクセイ科の落葉高木です。葉は、托葉※1のない単葉で、長い葉柄※2があり対生※3します。緑色、楕円形、長さ3～7cmで、裏面には褐色の毛が生えます。花は、5月上旬～5月中旬に、純白で円すい状の集散花序※4を小枝の先につけます。果実は、核果で熟すと黒くなります。雌雄異株※5とされていますが、実は完全な雌雄異株ではありません。おしべとめしべを備えた両性花の株と、雄株の2種類しかなく、雌性花をつけるものはありません。

- ※1. 托葉たくよう…葉柄と枝の付け根に見られる小さな葉のようなもの。
- ※2. 葉柄ようへい…葉身と枝をつなぐ柄の部分。  
種類によってはほとんど葉柄がないものもある。
- ※3. 対生たいせい…葉の付き方の一つで、枝に2枚の葉が対になってつくこと。
- ※4. 花序かじょ…花を付ける茎の部分。
- ※5. 雌雄異株せいゆういしゅ…雄の木と雌の木が異なる樹木のこと。  
雌雄異株の樹木は雄株と雌株の2本の木がないと実がならず、実は雌株のみにつく。

## ● 自生地 ( )内は国指定天然記念物指定年月日

長崎県対馬市上対馬町鰐浦 (昭和3年1月18日) 岐阜県中津川市蛭川 (大正12年3月7日)  
岐阜県瑞浪市釜戸町 (大正12年3月7日) 岐阜県恵那市笠置町 (大正12年3月7日)  
愛知県犬山市池野字西洞 (大正12年3月7日)

犬山市

ヒトツバタゴ自生地

※詳しくは裏面をご覧ください。

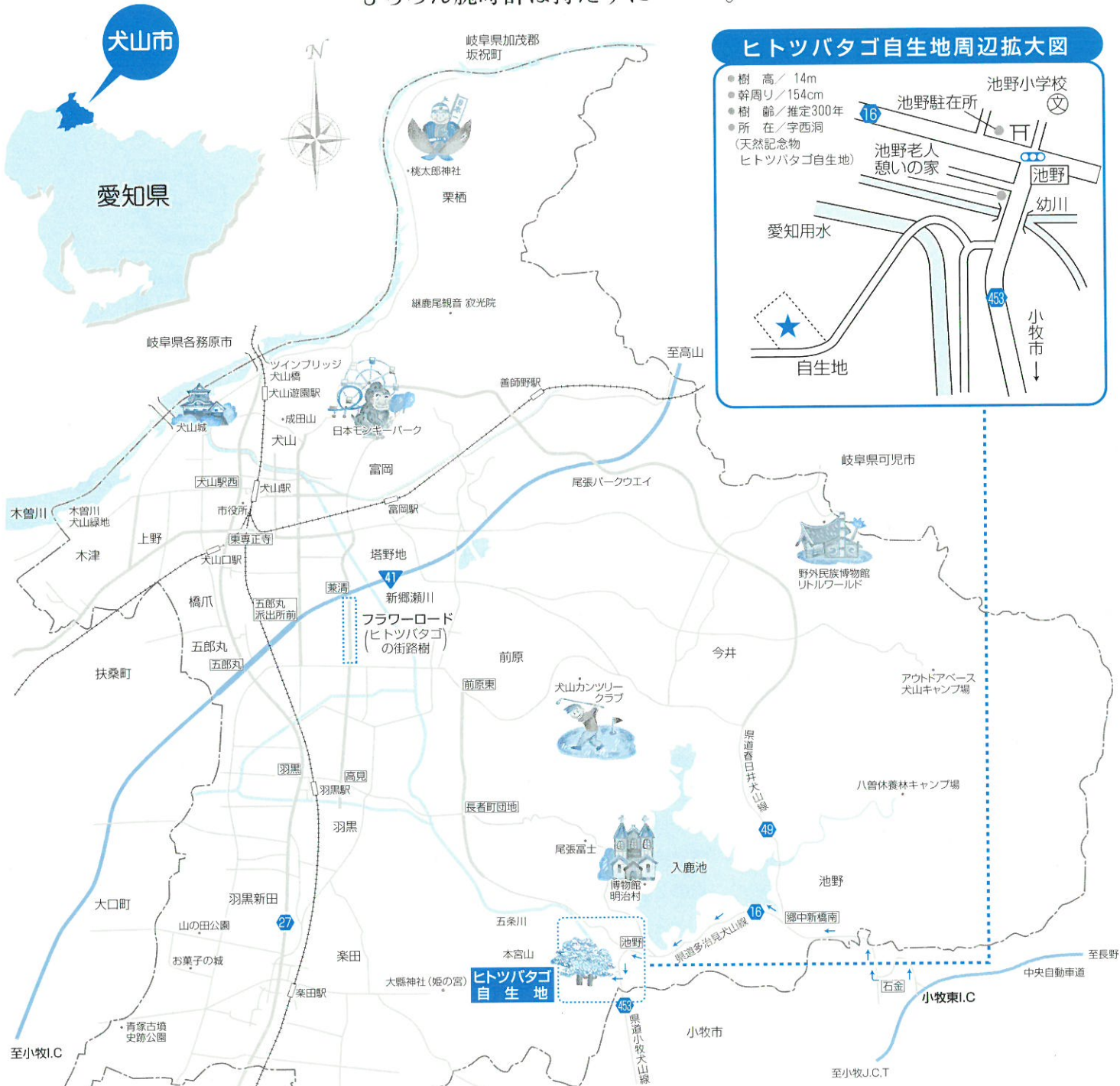


犬山の

# ヒトツバタゴを見に行こう!!



青空の下、天然記念物ヒトツバタゴの自生地へ！  
ただ自然の流れに五感をゆだね、風景に溶けてゆく自分を楽しむ。  
もちろん腕時計は持たずに…………。



### ヒトツバタゴ自生地周辺拡大図

- 樹 高 / 14m
- 幹 周 径 / 154cm
- 樹 齢 / 推定300年
- 所 在 / 宇西洞 (天然記念物 ヒトツバタゴ自生地)

池野駐在所 池野小学校  
池野老人憩いの家 池野 幼川  
愛知用水  
自生地  
小牧市 ↓



● 名鉄犬山駅東口より名鉄バス  
明治村行 20分  
「明治村バス停」下車後徒歩15分  
※周辺に駐車場はありません